

指導助言者：関口幸子先生（千葉県教育庁指導主事）

共同研究者：西垣知佳子先生（千葉大学教育学部）

本校英語科：中井康平 川名隆行 見目慎也 山崎達也

次への学びに向かう生徒の育成 ～DDLを用いた探究的な学びの実践～

日時：令和6年6月27日（木）14:30～16:30（ZOOMにてオンライン開催）

DDL（データ駆動型学習；Data Driven Learning）とは、英文データベースであるコーパスとその検索ソフトを用い、学習者自身が言語データの検索をし、その結果を観察することで、文法などの言語の規則を帰納的に発見する学習法です。

本研究では、生徒が学び続けていくという姿勢を育成していくことをねらいとしています。DDLの有用性はこれまでの本校英語科の研究で明らかにされています。本実践では、生徒が学習していく中で、受動的な学びに留まるのではなく、自ら疑問を持ち、それをDDLを用いて解決して学んでいく過程を、生徒が自分の問いに基づいて作成をする【文法レポート】の取り組みを通して考察していきます。

